

僕の夢 私の夢

子どもたちは真庭市の未来そのものです。
そんな市内の子どもたちに
「将来なりたい職業」や
「どんな大人になりたいか」について、
お話を聞きました。



中和小学校6年生
やまおか ありさ
山岡 杏理沙さん
「小さい子どもが好きなので、
保育園の先生になりたい」



天の川子ども園年少
まつおか みほ
松岡 美穂さん
「アナと雪の女王の
「エルサ」になりたい」



川上子ども園年長
いけだ そわ
池田 想和さん
「警察官になって
みんなを助けたい」



草加部小学校6年生
いけもと だいすけ
池元 大介さん
「税理士になって
真庭で仕事がしたい」



中津井小学校3年生
すどう ひいろ
須藤 陽彩さん
「小林先生みたいな素敵な
先生になりたい」



勝山小学校2年生
おた みゆう
太田 愛結さん
「ピアニストか
パンダの飼育員になりたい」



月田小学校4年生
のむら ゆうた
野村 悠太さん
「恐竜博士になって
もっと研究したい」



美甘小学校4年生
はら りお
原 里緒さん
「パティシエになっておいしい
お菓子をいっぱい作りたい」



蒜山中学校3年生
ひらおか はるな
平岡 晴菜さん
「人に慕われるような、
約束を守る、嘘をつかない、
人のために何かをする大人
になりたい」



落合中学校3年生
せのお りゅうすけ
妹尾 竜之介さん
「真庭にしっかり貢献できる
ような大人になりたい」



砦部小学校2年生
いわい ちひろ
岩井 千紘さん
「料理が上手になって、
レストランを開きたい」

特集 真庭市の教育が目指すもの

木山小学校1年生

くらだ かな
黒田 佳奈さん

「ジュウオウジャーの「シャーク」
になって、みんなを助けたい」

北房中学校2年生

たなか みはる
田中 愛悠さん

「パティシエになってお菓子で
たくさんの人を笑顔にしたい」

米来小学校1年生

ふじわら ひな
藤原 妃菜さん

「ケーキ屋さんになって
みんなを笑顔にしたい」

湯原小学校6年生

いけだ あき
池田 暁さん

「料理屋の店長になって、
たくさんの人を笑顔にしたい」

勝山中学校2年生

にしもと ちなつ
西本 千夏さん

「美容師になって、
たくさんの人を笑顔にしたい」

勝山こども園年中

いだか あのえ
井高 愛乃恵さん

「キラキラプリキュア
アラモードの「マカロン」に
なりたい」

久世中学校3年生

ふくい たかと
福井 崇斗さん

「幼稚園の先生になって、
子どもたちを毎日笑顔にしたい」

勝山こども園年少

まつお いとし
松尾 意駿さん

「お医者さんになりたい」

遷喬小学校2年生

のぶたに ひろむ
信谷 大夢さん

「SLの機関士になりたい」

水田小学校3年生

やまもと いろは
山本 彩葉さん

「保育園の先生になって、
子どもたちのお世話がしたい」

湯原中学校2年生

きはら りょう
木原 亮陽さん

「数学の教師になって、
数学の楽しさを伝えたい」

美川小学校6年生

ただだ しゅり
武田 朱里さん

「看護師になって、一人でも多くの
病気の人の力になりたい」

八束小学校5年生

きむら ぎんじ
木村 銀志さん

「農家になって
お米を作りたい!」

真庭市の教育が 目指すもの



真庭市は先に総合教育大綱を定め、『個性と能力を十分に伸ばし、互いにライフスタイルを応援しあう「まち』』をその基本目標としました。これは、真庭市で最も大切なのは「ひと」であり、「ひと」が輝くことこそが真庭市の姿であるという宣言です。

では、その実現のために真庭市ではこれからどのような取り組みが行われるのでしょうか。真庭市教育委員会の学校教育課、教育総務課、生涯学習課の各課長に話を聞きました。

落合朗読サークルによる本の読み聞かせ(木山小学校1年生)

行きたい 学校づくり

学校教育課課長 丸山敬三

行きたいと思う学校の2つの要素

子どもたちが、「明日も行きたいな」と思う学校には、2つの大きな要素があります。1つは、『勉強が分かる』ことです。「できた!」「わかった!」が実感できる授業では、子どもたちの目は輝いています。そのために、日々の授業を進める上で、①教材研究、②課題対応、③生活習慣づくり、④点検・評価の4つを徹底し、主体的に学び合う楽しさを共有できる「授業づくり」を行います。

もう1つは、『仲間がいること』です。子どもたちの力は、仲間との関わり合いを通して育まれていきます。仲間の大切さを共有する「学級づくり」、自分の役割や貢献を感じることができ居場所づくりを進めます。

全校において、このような「授業づくり」と「学級づくり」を両輪とし、子どもたちの学校生活における課題を明確にし、それに基づく指導と検証、改善を繰り返し行うことで、「行きたい学校づくり」を進めていきます。

地域との連携が不可欠

教育活動を支えるものとして、まず、地域との連携・協働が欠かせません。地域体験学習はもとより、例えば、「あいさつ」もその大切な姿の一つです。日々の登下校の道が、地域から見守られ、あいさつが行き交う「あいさつロード」となればと願います。また、ICT(情報通信技術)の活用も不可欠です。共に思考し、表現し、発信する力を育むため、有効に活用していきます。

子どもが「行きたい学校」は、保護者が「行かせたい学校」であり、地域が「応援したい学校」です。このような学校づくりの推進に力強く取り組んでいきます。



算数の授業(勝山小学校1年生)



未来に続く 教育環境づくり

教育総務課 課長 河島賢治



安心して学習できる環境整備

子どもたちが安心して学習できる環境での学習の機会づくりを進めていきます。そのため、大きく2つの施策に取り組んでいきます。

1つ目は、『学校環境の適正化』です。日々生活する場である学校は、子どもたちにとって安心でき、同時に学習するにふさわしい環境でなくてはなりません。このため、学校現場の現状把握と子どもの学習に適した環境を調査し、施設性能の向上の検討を行います。また、地域産業とつながった安定した学校給食の提供や共同調理場化の推進についても取り組みを行います。そして、子どもたちの個性と能力を伸ばすための適正な学校規模と配置について、地域住民の皆さんと一緒に考えていきます。

2つ目は、『安心して学習できる学習機会の保障』です。子どもたちが学校生活をのびのびと過ごし、安心して学習するためには、今と将来の学習機会に不安がないことが大切です。経済的な支援が必要な世帯に対する就学援助を充実さ

せるため、新入生学用品費の早期給付に取り組みます。また、奨学金貸付事業の周知を図り、進学に対する不安を軽減できるようにしていきます。



給食の時間(川東小学校6年生)

子どもたちは真庭市の未来そのもの

真庭市で最も大切なのは、「ひと」です。未来の大人である子どもたちは、真庭市の未来そのものです。子どもたちの可能性を信じ、その人生が豊かになるように、どんな環境を用意できるのかを、市民の皆さんと一緒に考え、話し合うことから始めていきたいと考えています。

いつでもどこでも誰でも 参加できる学びの場づくり

生涯学習課 課長 武村良江



学びの場をもっと身近に

生涯学習課では、誰もが好きな時に参加できる『学びの場づくり』を進めるため、大きく2つのことに取り組んでいきます。

まずは、図書館の整備です。現在、平成30年7月頃の開館に向け、全ての市立図書館の運営を統括する中央図書館の開館準備を進めています。中央図書館には、新書や文庫、雑誌のほか、子どもが素足で利用できるキッズスペース、高齢者や障がい者に限らず全ての人が安心して利用できるユニバーサルデザインを取り入れ、誰もが気軽に立ち寄りたいと思える図書館づくりを進めます。

また、市民ボランティアの方とも連携しながら、より気軽に利用できる場としていきます。親子で絵本に親しみ、くつろぎながら地域の人と交流し、そして生活の中でいつでも本を手にすることができ「本の香りがするまちづくり」を進めます。



地域で子どもを育てる環境を

次に「地域全体で子どもを育てる環境づくり」を進めます。真庭市では、放課後や休日に子どもの居場所をつくり、学習活動などに取り組む「放課後子ども教室」を各地域で開いています。子どもを地域で育てる活動は、人のつながりを生み地域を元気にする活動です。市内には、夏休みなどにも子どもの居場所づくりに取り組む地域もありますが、これを全地域へ拡大していきたいと考えています。



春休み中の児童の学習意欲向上と居場所づくりを目的とした「スプリングスクール at 久世公民館」

新教育長 × 子育てママ

真庭市の教育の方向性

「共育」を語る

真庭市の新教育長に、常にオープンな議論を大切にしたいという三ツ宗宏氏が就任。三ツ教育長の考える真庭市の教育とは、どのようなものなのでしょうか。今回、美甘宿場通りにある「香杏館 micamocafe」を運営しながら、子育てに忙しい毎日を送っている山本裕子さんと中山優花さんに、話を聞いていただきました。

**真庭市の良さを十分
生かした教育を**

中山…教育長になられて、真庭市の子どもたちをどんな風に育てていきたいと思われていますか？

教育長…願いは誰も同じなのだと思えます。真庭市だから何か特別な能力や資質が必要ということはありません。今は、変化が激しい時代ですから、子どもたちが日々楽しく過ごしながらも、しっかりと考えたり、自分の考えを表現したりする力をつけることが、これから先、生きていく上で大事だと考えています。ただ、それは全国共通のことなので、真庭市の良さを生かしたいと思っています。

ところで、お二人は、真庭市の良さについてどんなところだと思いますか。

山本…自然が豊かなところとか…。

中山…美甘は特に人数が少ないので、子どもたちは伸び伸びとしているように思いますけど、人数が少なくなると、学校の統廃合がもっと進んでいくのではないかと不安もあります。

教育長…確かにそういうご意見もありますが、おっしゃられるように、例え



三ツ 宗宏 教育長

上水田出身の55歳。趣味は、目的地を決めずに出かけるバイクでの放浪。いろいろな景色を眺め感じる事が次のアイデアの源泉に。

ば「自然が豊かなこと」や「子どもが伸び伸びしていること」が、真庭の良さだと思います。

子どもたちがしっかりと自然と触れ合ったり、友だちや地域の方と協力したりしながら勉強し、いろんなことを発見したりすることが、真庭市ではしやすいからだと思います。そうしたことを重ねていくことで、地域に誇りを持ち、自分で考えて発信する力を備えた子どもが育っていくと考えています。

「子どもを真ん中」に考えて

山本…美甘中学校も廃校になりましたが、その時不満の声も聞きました。学校の統合について、どう思いますか？

教育長…いつまでも子どもがたくさんいて、元気な声が地域に響いて、そして、それがこれから先もずっと続いてほしいと思っています。誰も同じです。私たちがそう願っています。一方で、子どもの数が非常に少なくなると同級

生がほとんどいないと、友だち同士、関わって学ぶ機会が減ります。次の時代を生きていく子どもたちのためにどのような教育環境が望ましいか、また、今後継続して安定的に教育を行うためにはどうすればいいかを考えていかなければなりません。

責任ある行政の立場として、判断する時期は考える必要があると思っておりますが、もちろん一方的に決めてしまつては良くありません。学校は地域コミュニティの核とも言える側面がありますので、子どもの育ちを考えることを真ん中に置きながら、保護者、地域の方々としっかりと話し合いを進め、今後の方向を見定めていきたいと思つています。

地域の人の温もりで子どもたちを守る

山本…通学中の子どもが事故にあわないか、いつも心配です。通学中のことについてどうお考えですか。

教育長…近年、真庭市内で大きな事故は起こっていませんが、通学中の事故は少なからず起こっています。できるだけ配慮はしていますが、やはり公道を通つて通学するので、完全に

安全と言い切れる状況にするのは困難です。日頃の安全指導の充実に加えて、子どもたちも生きていく力として、危険を予見する力や回避する力を高める必要があります。ところで、この地域には「見守り活動」がありますか。

山本…この地域にはありません。学校にもお願いはしてはいますけど…。通学中に大きなカーブがあつて見にくくて心配な場所もあります。

教育長…子どもの命に直結することなので、地域の方にもできるだけご協力いただければと願っています。市内の学校によつてまちまちですが、多くの地域で通学を見守つていただいでい

て、大変ありがたいと思つています。今後、地域の方に子ども登下校の時間に合わせて散歩や農作業などをしていただくようお願いし、地域の方の温かさで子どもたちが守られる真庭市でありたいと思つています。

人と人とのつながりを大切に 真庭市の目指す「共育」

中山…4月の広報紙と一緒に入つていた真庭市総合教育大綱ダイジェスト版に、真庭市が「共育」に取り組むと書いてありました。他にも協育とか郷育とか。上手いこと書いてあるなつて思いましたが、もう少し分かりやすく教えてください。

教育長…いろいろな側面はありますが、「共に育ち、育て合う」という『共育』には、何より「人のつながり」が必要だと思つています。そして、人がつながるためには、今日のような「語り合い」が必要です。ですから、学校や家庭で悩みを語り合うことや、子ども同士でも分からないことや不思議に思う事があつたら相談して解決するなど、みんなで「語り合う」ことが基本だと思つています。

さつき、上手いこと書いていると言われた、協力の「協」の『協育』は、地域で協力して子どもを育みましょうということ。先程、見守りの話も

ありましたが、地域の財産である子どもを地域の人たちで見守つていこうとか、危ないからついて歩こうとか、そういうことが、「協力して育む姿」だと思ひます。

郷土の「郷」の『郷育』は、まさしく地域をよく勉強しようということ。自分が住んでいる地域を知つて誇りが持てるように、郷土を学ぶことは、古きを学ぶだけでなく、未来にもつながつていくことでもあるのでとても大切だと思つています。

最後が「響」の『響育』です。「みんな違って、みんないい」ということです。お互いの良さを認め合い、心通わせ合つて学び合うことです。そうした願いを込めて、真庭市では「共に育て合う」ということを大切に考えています。いかがでしょうか。

中山・山本

難しい話だけど、なんとなくイメージできました。子どもたちのために私たちががんばります。これからもよろしくお願ひします。



インタビュー 写真左から:

山本 裕子 さん

4児の母。料理を作るのも食べるのも好き。

中山 優花 さん

3児の母。お菓を作るのも食べてもらうのも好き。



こうきょう かん 香杏館 micamo cafe

住所▶真庭市美甘3950-2

電話▶0867-45-7323

OPEN▶10時~16時



共育

きょう いく

真庭市の教育施策の方向性

人に寄り添い、共に育ち、多彩で豊かな人生を応援しあうことが、真庭市の教育施策の方向性「共育」です。お互いの良いところを認め合う『響



久世図書館
図書館ボランティア



北房中学校
乳幼児ふれあい体験

きょう いく

協育

みんなで育てあう



余野小学校／親子交流行事



勝山野球スポーツ少年団／交通安全啓発活動

真庭市の地域コミュニティの力を生かし、「ひと」の横のつながりを培う中で、「ひと」がもつ可能性をより大きく育てます。



川東小学校／脱穀体験



月田小学校／地域の工場見学



湯原中学校／トライアスロンのボランティア



米来小学校／見守り活動

真庭市の自然や風土の中で体験や経験を通じて、ふるさとに対する愛情と誇りを育てます。



三川小学校
飯山城跡登山



湯原小学校
牛の乳しぼり体験



落合小学校／うみやまかわ新聞の作成



川上小学校／シリゲの体験学習



田口コミュニティ協議会
三代交流行事



真庭っ子
バイオマスツアー



中津井小学校／地域の歴史学習

米来小学校／車椅子体験



水田小学校／収穫したお米で収穫祭



中津井小学校／花岡荘訪問



育、ふるさとを知り、ふるさとを思
う『郷育』、「人と人、地域のつなが
りを大切にする『協育』を通じて、
共に育ち合います。

美川小学校／十字園訪問



美川小学校／音楽鑑賞会



きょう いく
郷育
互いを認めあい、
よいところを育てあう

子ども参観日



応援することを考えるワークショップ



互いに認め合い、心を通
わせ、感動し合い、共鳴し
ながら、一人ひとりがそれぞ
れ違う個性と能力を伸ばし
合います。



皆部小学校／ふれあい伝承会

草加部小学校／花いっぱい運動



上水田小学校
学区内の古墳の見学



きょう いく
郷育

ふるさとを知り、
ふるさとへの思いを育てる

美甘地域／150年以上の歴史のある「天神祭」



八束小学校／大宮踊講習会

子供魚釣り大会

